

《国際物流に関する情報共有会合》

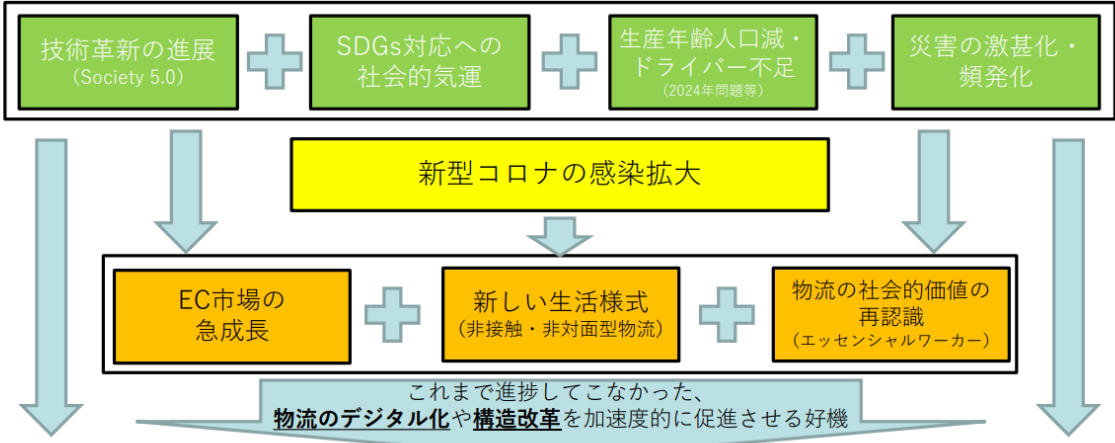
国土交通省 農林水産省 経済産業省

国際物流強靱化推進ワーキング 活動の方向性と概要 ～しなやか、を強さと力に～

2022年6月17日（金）

我が国が直面する課題と解決に向けて

総合物流施策大綱（2021年～2025年）



新型コロナ流行による社会の劇的な変化もあいまって、我が国の物流が直面する課題は先鋭化・鮮明化

①物流DXや物流標準化の推進によるサプライチェーン全体の徹底した最適化
(簡素で滑らかな物流)

②労働力不足対策と物流構造改革の推進
(担い手にやさしい物流)

③強靱で持続可能な物流ネットワークの構築
(強くてしなやかな物流)

《JILS常設委員会である「会員・広報委員会」のもとに推進》
国内物流・国際物流の足元課題の解決に向けて、
“会員の、会員による、会員のための”事業機会等の創出へ
→国際物流強靱化推進ワーキング
→2024年問題対応推進検討会

ロジスティクスコンセプト2030の提言

- 提言1 ロジスティクスを再定義しよう
- 提言2 サプライチェーンを再構築しよう
- 提言3 標準化を猛烈に進めよう
- 提言4 適切な投資をしよう
- 提言5 データ共有型プラットフォームを育てよう
- 提言6 ユートピアへの準備をしよう
- 提言7 提言1から6を実行できる高度人材を育成しよう

活動の目的と対象

1. 目的

荷主（製造・流通）企業として事業の継続・持続性を高めるため、国際物流の強靱化に向けて関係者間で取組み等の共有および協調・連携すべき事項等に関する検討、検証、実証を行い、その結果を普及する。

2. 対象

荷主（製造、流通）企業および活動を支援する賛助企業（商社、システムベンダー等）

- ・消費財（食品、日用雑貨等）
- ・耐久消費財（四輪・二輪車、家電・電気、精密機器等）
- ・賛助企業（商社、システムベンダー等）

※幹事メンバー（旧グローバルロジスティクス研究会）を中心として活動の方針や計画等を検討、計画し実行する。

※オブザーバーとして、経済産業省、国土交通省等の関係行政機関に参画を要請（予定）

これまでのグローバルに関わる事業の経緯など

◆経緯1：「研究会（共有）」から「ワーキング（現実解）」へ

- ・2014年～2016年 「グローバルロジスティクス研究会」の立上げ
※電機・精密機器の製造業で構成
- ・2017年～2019年 「グローバルロジスティクス研究会」の再編成
※参加対象を拡張し、全て業種で構成
- ・2020年～2021年 「グローバルロジスティクス研究会」の再々編成
※電機・精密機器の製造業で構成
- ・2022年～ 「国際物流強靱化推進ワーキング」として再構築
※製造業・流通業を中心に構成

◆経緯2：これまでの「情報提供」の経過

- ・2021年 8月 JILSホームページに行政や団体等の関連情報をアップ
11月頃より月2回程度で更新情報をアップ。
- ・2021年12月 アンケート調査を実施
「国際海上輸送を中心とした国際物流の混乱に伴う荷主企業の物流、サプライチェーンとSCMへの影響」*
- ・2022年 2月 テーマ別研究会（ウェビナー）を開催
「コロナ禍における“国際物流混乱の先のSCMの在り方”を探る」
参加者：1,076名
- ・2022年 4月 テーマ別研究会（ウェビナー）を開催
「米国西岸港湾ストライキの可能性とその物流対策を探る」
参加者：1,101名
- ・2022年 5月 テーマ別研究会（ウェビナー）を開催
「米国西岸港湾ストライキ海上輸送対策研究会」
参加者：584名

◆方向性：JILS会員等の英知を結集

2019年に新型コロナウイルス感染症が中国から発症、以降、世界中で感染拡大が始まり「パンデミック」の状況となる。一時的に中国で収束した際、需要の急拡大に伴う需給混乱が発生、国際物流、特に海上輸送に大きな混乱をもたらしており、コンテナからスペース、運賃等々がこれまでの状況が一変し、大きな変化がおきている。

このような変化のなかでも、日本の産業界の事業継続性と持続可能性を高めるため、JILS会員企業を中心にその英知を結集し、

オープンイノベーションの検討・検証と実践のための「ワーキング」を立上げる。

*「国際海上輸送を中心とした国際物流の混乱に伴う荷主企業の物流、サプライチェーンとSCMへの影響」
<https://onl.bz/FJMHa53>

準備会合参画企業一覧（2022年6月時点）

| NO | 会社名 *社名50音順 |
|----|-------------------------------|
| 1 | (株)イシダ |
| 2 | 江崎グリコ(株) |
| 3 | キューピー(株) |
| 4 | クボタロジスティクス(株) |
| 5 | シスメックス(株) |
| 6 | ソニー(株)※三井倉庫サプライチェーンソリューション(株) |
| 7 | ダイキン工業(株) |
| 8 | ネスレ日本(株) |
| 9 | パナソニックオペレーショナルエクセレンス(株) |
| 10 | ブラザーインターナショナル(株) |
| 11 | 本田技研工業(株) |
| 12 | ヤマハ(株) |
| 13 | (株)リコー |

活動の方向性（3）

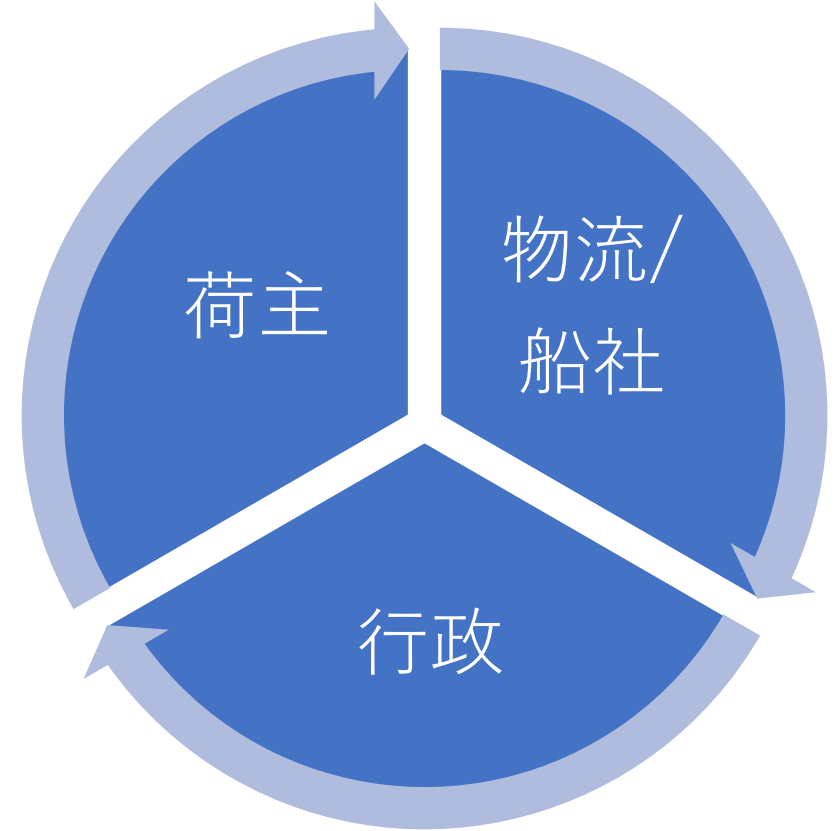
◆荷主間のより深い情報共有、協業の検討

- 1) 各社の国際物流力の現状把握（成熟度）
- 2) 各社の製品と物流の特性の理解
- 3) 自社の国際物流強化のための情報収集と自社への変換/展開
 - ・カーボンニュートラル（スコープ3）、共同物流、BCP（地政学含）対応や管理指標（見通し、判断材料、DX）、物流事業者等との関係、評価
 - ・エリアや機能等の特化した情報共有（小グループ）
※日本出し、三国間等々
- 4) 協調・連携に向けた施策の検討
例：共同購買、共同物流など

◆荷主協業での船社・フォワーダーへのアプローチ

※必要に応じて、「荷主・物流WG」等の設置

◆行政/国の施策との連動（提言）



スケジュール（イメージ）

| 年度 | 2022年度 | 2023年度 | 2024年度 |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------|
| 主要活動 | ①荷主WGの立上げ ②あるべき姿の提示とギャップの確認 ※「成熟度フォーマット」等を作成、活用予定 ③ギャップ解消に向けた課題の整理 ④課題解決に向けた企画の検討 ※普及のためのイベント開催目途 | ⑤課題解決に向けた企画の検証、実証 ⑥⑤の結果の問題点と成功ポイントの共有、普及 ⑦⑥問題点の解消に向けた企画の検討と検証、実証 ※「荷主・物流WG」の立上げ目途 | ①から⑦等を広く普及し、 協調・連携に資するソリューション（現実解）の社会実装に向けた産官団体等の連携の取組み等 |

| 2022年度 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 01月 | 02月 | 03月 |
|-----------------|-----------------------------------------|----|----|----|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|-----------------------|
| 準備会合 ※幹事メンバー | 幹事メンバーを中心に、現状と問題の把握し、WG活動の方針、計画やテーマ等を検討 | | | | | | | | | |
| メンバー募集 | | → | | | | | | | | |
| 荷主WG | | | | | 第1回 活動テーマ① | 第2回 活動テーマ① | 第3回 活動テーマ① | 第4回 活動テーマ② | 第5回 活動テーマ② | 普及の場 ※イベント 開催目途 |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |

【お問合せ先】

(公社) 日本ロジスティクスシステム協会 (JILS)

JILS総合研究所 : 遠藤、関西支部 : 大西

customer@logistics.or.jp